



学校だより

横浜市立釜利谷中学校

発行日 2020年12月4日(金)

発行者 学校長 栗田智則

所在地 金沢区釜利谷南3-5-1

電話 784-7311 FAX 783-9762

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/kamariya/>

困難を乗り越える力

校長 栗田智則

朝晩の寒暖差が大きくなり、本格的な冬の到来を感じるようになりました。師走である12月は、何となく忙しい反面、年末年始が近づいて気持ちもワクワクしますが、今年は新型コロナウイルス感染症の第3波の影響で全国的に自粛ムードとなりつつあります。「三週間が勝負」との報道もあり、インフルエンザやノロウイルスも懸念される季節です。改めて、基本的な感染症予防対策の意識を高めて、各自の体調管理に努めていきたいものです。

先月17日に宇宙への夢の広がるニュースがありました。『アメリカの民間企業スペースXの宇宙船クルードラゴンの1号機は、日本人宇宙飛行士の野口聡一さんとアメリカ人宇宙飛行士合わせて4人を乗せて日本時間の16日に打ち上げられ、国際宇宙ステーションに接近する手順を進めていました。「レジリエンス」と名付けられた1号機は、打ち上げから27時間余経過した17日午後1時1分に国際宇宙ステーションとのドッキングに成功しました。安全確認をした上でハッチが開けられ、野口さんたち4人の飛行士は宇宙ステーションに乗り込み、およそ6か月の長期滞在が始まりました』と。レジリエンスという言葉は、もともとは物理学・工学の分野で、外から力を加えられた物質が元の状態に戻ろうとする弾性や復元力を表します。それから転じて、環境破壊や経済危機のような深刻な外的ショックに対して「社会を回復する力」の意味でも用いられるようになりました。心理学の分野では「**困難なできごとを乗り越える人間の能力**」としてこの言葉が使われているそうです。宇宙船クルードラゴン1号機には、困難への克服という意志が込められてレジリエンスと名付けられたようです。人間がレジリエンスを発揮するためには、いくつかの要因が必要だと考えられ「現実を見つめ、明るい未来を信じる」「ロールモデル(模範)を手本に」「人生の出来事を成長につなげる」(人生の危機を乗り越えるための科学と10の処方箋より)などがあるそうです。



NHKのスポーツアナウンサーとして数々の実況を担当した刈谷富士雄氏。「伸身の新月面が描く放物線は、栄光への架け橋だ」(2004年アテネ五輪体操男子団体決勝で、日本が28年ぶりに金メダルを獲得した際の実況)という名実況は、オリンピック放送史に残るコメントと高く評価され、今でもメディアで取り上げられます。刈谷氏のスポーツ取材の原点は、ある高校の野球部の取材だったといいます。テニスコートほどの狭いグラウンドで、守備練習のベースは二つだけ。一塁手と二塁手のノックが終わると、今度は反対側から三塁手と遊撃手にノック。外野練習は校舎の3階からボールを投げ入れる。そんな練習をする野球部の監督に質問した。こんな環境で練習する意味はあるのか?と。監督は答えます。「いい環境を求めたらきりが無い。限られた条件の中で、何ができるかを一生懸命に考えれば、アイデアは次々と生まれてくる。環境は有限だが、発想は無限」と。(「今こそ栄光の架橋を」より)

いよいよ3年生にとって大切な進路決定の時期を迎えます。2年生中心に代替わりをした部活動も日々の練習や試合で素晴らしい笑顔で活躍をしています。コロナ禍での環境を憂うよりも、一人ひとりが賢く生活をしながら、自分の内に秘めたレジリエンスを発揮していきたいものです。

◇ 修学旅行から学ぶ

修学旅行担当 飯千功佑



スローガン

北海道 ～五感で感じる大自然～



目的

- ①自然とのふれあいや第一次産業との関わりを通して、地球環境に配慮した生活を送るための知識や関心を高める
- ②班別自主行動を自らの手で準備・計画・立案することにより、協力の姿勢を大切にしながら、自主自立の力を身につける
- ③雄大な自然に触れ、中学校生活のよい思い出を作るとともに、人間関係をより深め、豊かな人間性を養う。

○はじめに

修学旅行を立案するにあたり、これからの社会を見通した体験学習にしていきたいと考えました。これからの社会とは、地球環境に配慮し、人やその他生物が共存して生きていけるような社会です。そのために、人は持続可能な開発を目指さなければなりません。そして、今の中学生が大人になるとき、その社会を土台とした社会となっているはずです。そのために、今、農業や漁業である第一次産業を知り、自分で考え行動する自主自立の力を身につけ、学級や学年の仲間とともに豊かな人間性を育むことを目的としました。



○事前学習

2年次には20テーマの中から一人一つ選択し、資料を作成して、学級で発表を行いました。また、13人の学年代表を選出し、体育館にて学年全員の前でプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションでは技術の授業時に履修した、パワーポイントを使用して発表する生徒もいました。事前学習では総合の授業の本来の目的である、国語、社会、理科、英語などの教科を通り越した、横断的な時間になりました。また、インプットだけでなくアウトプットし自分を表現することで相手に伝えることができました。身振り手振りのジェスチャー、クイズ形式や英語でのプレゼン。どれも秀逸でした。



○行動計画、班行動

修学旅行を実施するにあたり、自分たちで行動する時間もあります。その時間の使いかたを班長と副班長が中心となって班で計画しました。コロナの影響による「小樽から函館」「函館から小樽」という度重なる目的地の変更でも、行動計画を立て直し、自分たちの体験したい内容（または行ってみたい、食べてみたい）を立案しました。今の社会では、スマートフォンという便利な機器があり、そこではすべてを解決してくれるかもしれません。だからこそ、班で目的をたて、その達成のために何が必要かを予想（準備）をし、逆算する能力を培えたと思います。

○実行委員（係活動）

実行委員も度重なる変更の中でも目的を見失うことなく活動しました。学年をよりよく、そして、このコロナ禍を吹き飛ばそうと、学級や学年が一体となるようなレクを立案しました。

また、全員が楽しめるような心得を設定し、きまりの中で修学旅行を楽しめる雰囲気を2年次から作りま



した。現状の中で、できないことに批判や文句を言うのではなく、できることを一生懸命に考え、行動できた活動となりました。有志達も最高の司会と笑いをありがとう!!!

○えこりん村

SDGsの取り組みや環境に配慮した取組を学習しました。また、シーブショーでは人と動物が共存して、活動する様子を垣間見ることができました。



○農業体験、昭和新山見学

ファームステイが中止になり、りんご農家での体験活動となりました。農園には芳醇な香りが広がり、広大な敷地には成熟した真っ赤な果実が、ところ狭しと生っていました。そのようなりんごを目の当たりにし、色をつけるための農家の苦勞を知りました。また、隣接する葡萄園で、葡萄を味わった際には甘いだけでなく、酸味のきいたものもあり、用途に使われた品種があることを学びました。

昭和新山では、活火山の影響で隆起した山を間近から見ることができ、自然の雄大さ、地球の成り立ちを学習することもできました。また、くま牧場も隣接しており、北海道の動物や自然に触れる機会となりました。くま可愛かったな…葡萄酸っぱい…



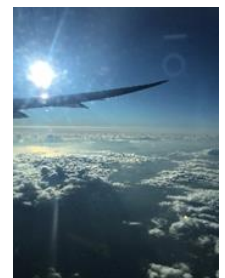
○当初の予定にはなかったラフティング

ファームステイが中止になり、代替の体験になったのがラフティングでした。尻別川の雄大な自然の中でのラフティングは、自然の恩恵を感じることでできる120分の体験となりました。また、男女混合のチームで一体となって活動し、普段では見ることでできない級友の姿を発見できたと思います。現地のガイドさんとの交流も、得るものが大きいものとなりました。あの冷たい川の中、みんなびしょびしょになったな～!!! 一いつちに一いつちに一!



○スローガンにある五感で感じる大自然

味覚、嗅覚、聴覚、視覚、触覚。先述のとおりこれらの五感を感じることで旅行であったと思います。しかし、この五感だけではなく、仲間とともに楽しんで「共感」し、様々な変更を乗り越えてやりきった「達成感」、3年生全員で成し遂げようと「連帯感」をもって取り組み、一人ひとりが「有用感」を大切にして集団を形成し、そして全体を通して「感動」を得られた旅行になりました。



○おわりに

★大和観光の添乗員さん

「みんなが健康第一に留意してくれたおかげで無事に帰ってこれました。ありがとうございます。」

★バスガイドさん

「若いうちに苦勞しなさい。その分だけ大人になったときに返ってくるから」

★実行委員長のしおりの言葉

「最後に新型コロナウイルスが流行している中で、先生方が計画してくださったことを忘れずに、修学旅行を全力で楽しみましょう。」

★保護者から

「いけない学校も多い中で、配慮しながら連れて行ってくださりありがとうございます。」

★ANA 機長さんのあいさつ

「度重なる計画の変更で苦勞も多かった旅行ではあったとは思いますが、良い旅になったでしょうか？残り短い中学校生活も健康に御留意され、この先の受験やそれぞれの道へ向け勉学、クラブ、そして大切な仲間と大切な時間をお過ごしください。添乗員も一同お祈りしています。」



今回の修学旅行は、さまざまな方々に支えられて実施できた修学旅行だと感じます。このようなご時世で、行くことが本当にベストなのか？と職員間で悩む日々でした。感染対策は万全の状態で行っても感染する場合もありますし、そうでない場合もあります。その中で今回はそのような結果論よりも、それまでの過程を大切にしてくれたことに勇気をもらいました。一人ひとり、一家庭ずつが健康に配慮する様子は、皆で行くんだという強い意志を感じました。また、さまざまな関係者からの、三年生に良い旅を味わわせてあげたい、そのためには最善の準備を！という信念も感じました。そして、その想いを関係者から上記のように聞いたときには胸が熱くなりました。

そのような中で皆には改めて、そこに至るまでの過程を大事にして欲しいと思いました。人は、成果や結果という報酬だけに囚われることが多々ありますが(もちろん大事です)、中学生のいまだからこそ、目標を大切に、周りの人の支えの中で成長してほしいと切に願います。持続可能な社会を目指すにあたり、そうした一人ひとりの成長がより良いこれからの作っていきます。そして、困難な時代だからこそポジティブなふるまいを!!!困難なときこそ力を発揮できる人こそ、真に賢く強い人だと思います。

◇ 2年生校外学習を終えて

2年担当 齋藤知怜

10月30日、マザー牧場に行ってきました。当初は例年通り東京方面へ行く予定でしたが、様々な状況を鑑み、マザー牧場へ行き先が変更となりました。初めて訪れる場所でしたが、まさに大自然に触れ、環境についてじっくり学び考えを深める絶好の機会だったと思います。

校外学習実行委員(学級委員)を中心に、スローガン決めから持ち物、ルールまで話し合いを重ね、ゼロから決めていきました。短い準備期間ではありましたが、準備に当たった実行委員は学年の仲間のために本当によく頑張りました。

今回の校外学習のスローガンは「モウ突進～豊かな自然と心を目指して～」でした。班で協力してオリエンテーリングをしたり、さまざまな自然・動物にふれたりすることで、多くのことを学ぶことができたと思います。また、広大な敷地で鬼ごっこをしたり芝生の上を転がったりするなどとても楽しそうに各クラスのレク時間を過ごしていました。仲間と楽しい時間を共有することで、クラスの輪も深まったのではないのでしょうか。

事後学習として、個人で新聞を作成しました。それぞれの個性があふれる作品となっておりますので、個人面談などで学校に来校された際には、是非子どもたちの作品をご覧ください。



◇ 1年生校外学習を終えて

1学年主任 和田宏毅

10月の末日、秋晴れの中、第一学年は校外学習に取り組みました。実習は「横浜・八景島シーパラダイス」で行い、生徒自らが設定した「みんなで学ぼう トリプルK～住み続けられるまちづくり～」をテーマに、さまざまな学びを体感しました（トリプルKは、K＝環境と資源・K＝公共のマナー・K＝感染症対策、を略したものです）。

私たちの住む金沢区の重要な観光資源である八景島を通して、SDGsの目標でもある「住み続けられるまちづくり」について考えました。同時に、社会のルールや、自分の個を生かしながら仲間と協力して物事を成し遂げていくことの大切さを、しっかりと学び取ることができました。

水族館では海洋生物の見学だけでなく、「スタジアムレクチャー」を学習に取り入れ、飼育員の方に「イルカの生態」や「トレーナーの仕事」といった内容の公演をしていただきました。公演中、熱心にメモを取り、一生懸命に聞き取ろうとする姿が見られ、生徒の意欲の高さを感じました。

校外学習のすばらしさは、学校の中だけでは学ぶことのできない、人生にとって大切なことを、地域のかや資源をお借りして体験できることにあります。ご協力いただいた皆様方には心から感謝申し上げます。校外学習で学んだことは、事後学習で新聞としてまとめられ、1階の廊下に展示いたします。もし機会がございましたら、ぜひ生徒たちの成果をご覧ください。



◇ 中学生の税についての作文コンクール

全国納税貯蓄組合連合会及び国税庁主催の「中学生の税についての作文」コンクールにおいて、3年生の柿内碧海さんの作文が、**横浜南青色申告会長賞**となり、横浜南税務署で表彰されることになりました。その作文を紹介します。

世界のめずらしい税

横浜市立釜利谷中学校 三年 柿内碧海

私は世界にあるちょっと変わった税について調べてみました。その中には、日本でも取り入れるべきだと思う税もありました。

最初に似ている三つの税から紹介します。まず、アメリカのソーダ税です。これは、甘味料が含まれる炭酸飲料に課税されるというものです。次にハンガリーのポテトチップス税です。これは、塩分や糖分が多いポテトチップスなどのスナック菓자에課税されます。砂糖が含まれる清涼飲料水やケーキも課税対象になります。最後にデンマークの脂肪税です。今は廃止されてしまいましたが、2~3%以上の飽和脂肪酸を含む食品、例えばバターやチーズ、食用油などに税金がかかっていた。飽和脂肪酸とは動物性の脂肪などです。この三つの税はどれも国民の健康を守るために行われました。ですが、食品なので国民の反対が多かったり、食品の物価が上がったりして失敗することも少なくありません。私はこの税は肥満が問題になっている国ではいいと思います。でも日本にはそれほど必要ではないかなと思います。

次に問題を解決しようとして行われた税を二つ紹介します。一つめはイギリスのロンドンの渋滞税です。これはロンドンの渋滞緩和のため、ロンドン中心部に入ってくる車から税金を取るというものです。二つめは、ブルガリアの独身税です。少子化が進んでいたことから婚姻率を上げようと独身者から収入の5~10%を徴収していました。しかし、この独身税の結果は、導入前は2.18%だった出生率が1.86%に下がる失敗となりました。主な理由は、徴収される税金が収入の5~10%と大きすぎたため金銭的な余裕がなくなり、結婚できなくなった若者が増えたからです。この二つの税はどちらもみんなのために行ったものですが成功したのは渋滞税だけです。税を課して問題が解決すれば一番いいですが、それはとても難しいです。税はみんなに何かをしてほしいからとむやみに高くすると逆に反対意見が多くなり失敗することが多くなります。

最後にぜひ日本にも導入してほしい税を紹介します。それはドイツの犬税です。これは犬を飼っている人から年間決められた額を徴収します。徴収された税金はフンの清掃など犬にかかわることに使われます。また、犬税があることで無責任に犬を飼う人が減ったりむやみに犬が繁殖されることも減りました。犬も人間も幸せになれる税です。この税は犬を飼えるくらいの余裕がある人からしか徴収しないので収入が少ない人を守れます。昔は日本でもありましたがなくなりました。かわいそうな生き物を減らすためにもぜひ復活してほしいです。

このように世界にはたくさんの種類の税があります。これらを参考にすれば、日本の問題を解決できるすばらしい税が見つかるかもしれません。

◇今後の予定について

12月 3日~ 8日	3年生 進路面談
12月 15日~18日	1, 2年生 個人面談
12月 25日	終業式
1月 6日	始業式
1月 12日	防災訓練
1月 20日	区個別支援級合同学芸会
1月 22日	私立高校推薦入試・発表
1月 下旬	公立高校共通選拔出願 私立高校一般出願
2月 1日~ 2日	3年生 冬テスト
2月 10日~12日	私立高校一般入試・発表
2月 15日~17日	1, 2年生 冬テスト
	公立高校共通選抜 (学力検査・面接・特色検査)
2月 22日	2年進路説明会
3月 1日	公立高校共通選抜発表
3月 11日	卒業証書授与式 (改めて御案内します)
3月 26日	修了式

